

# 「高品質」・「良食味」を目指して ～気象に負けない米づくり～

平成27年産コシヒカリの1等米比率は、89.9%と前年の87.7%に比べやや向上しましたが、目標とした1等米比率「95%」には届きませんでした。

近年、異常気象が続き、品質の面で大きな影響を受けています。高品質・良食味米を確保するためには、気象等と与えるマイナスの影響を最小限に抑える緩衝力の高い土づくりが不可欠です。持続的な土づくりで、気象変動に強い稲作を目指しましょう！

## 継続的な土づくりと根域の確保で、高品質米を生産しましょう！

～ ケイ酸を中心とした土づくりで品質向上!! ～

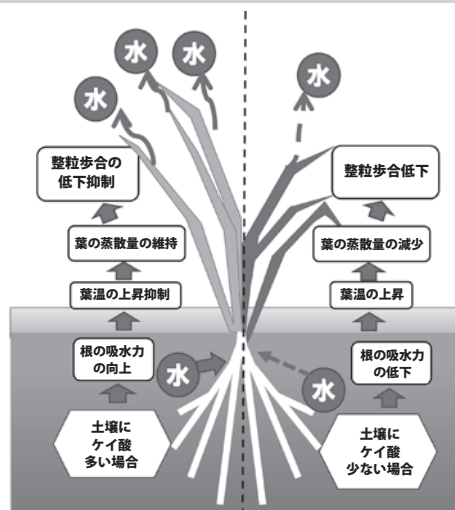
### ケイ酸の効果

#### ★根の水分吸収力が向上！

- ・光合成機能を十分に発揮  
 → 登熟向上につながる

#### ★茎葉や稈が強固に！

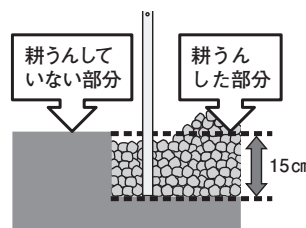
- ・茎葉が直立し受光態勢がよくなる  
 → 光合成を促進し登熟向上を促す。
- ・病害虫に対する抵抗力が強くなる。
- ・倒伏しにくくなる。



～ 土づくり肥料を施用した後は「根域を確保」しましょう ～

- ・耕うん作業は耕深15cmを目標に行うことで、「根」が張る作土層が広がり、良好な根域を確保できます。

※耕深を一度に深くすると、初期生育不良等を引き起こす可能性があります。毎年少しずつ深くしていき、目標の15cmを目指しましょう。

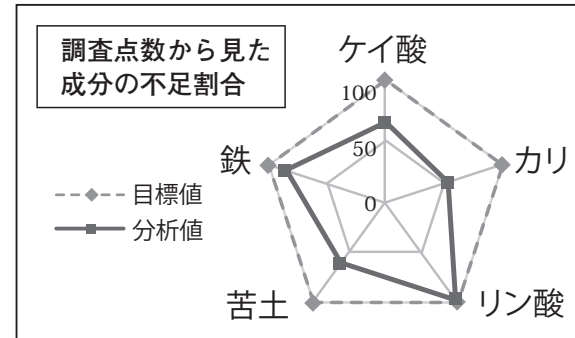


### ◎管内の土壌分析結果 (平成16～27年の626件のサンプルデータより)

- ・管内の分析結果はカリ、ケイ酸、苦土が不足している傾向が見られた。
- ・リン酸は多くの圃場が「足りている」と考えられる。
- ・ケイ酸を中心とした土づくりとカリ、苦土を中心とした中間追肥を行う。  
 また、基肥等のリン酸は減肥が可能だと考えられる。

#### ～分析から見たおすすめ肥料～

土づくり：ケイ酸加里  
 根付け肥：硫マグ  
 中間追肥：ケイ酸加里 等



### 【ケイ酸を含む土づくり肥料】

| 品名            | 成分 (%)                                  | 標準施肥量 (10a) |
|---------------|---|-------------|
| 魚沼ロマン アイアンスター | ケイ酸：12、リン酸：8、苦土：5、鉄：9.5、腐食酸：6           | 60kg        |
| けい酸加里 プレミア 34 | ケイ酸：34、カリ：20、苦土：4、ホウ素・鉄：微量              | 40kg～60kg   |
| ようりんケイカル 23号  | ケイ酸：26、リン酸：7、苦土：7                       | 100～200kg   |
| ソイルキーパー Fe    | ケイ酸：13.5、鉄：19、苦土：1.5                    | 100kg       |
| ソイルキーパー       | ケイ酸：26、カリ：4、苦土：4 腐食酸：4                  | 40kg        |
| スーパーシリカ プレミアム | ケイ酸：30、苦土：2                             | 60kg～100kg  |
| 農力アップ         | ケイ酸：20、リン酸：2.5、苦土：1、鉄：12、マンガン：2、ホウ素：0.1 | 60kg～100kg  |

## お知らせ

コシヒカリ BL 種子の品種構成が、平成28年産から変更になります。

【平成28年産コシヒカリ BL の品種構成】  
 1号：2号：4号：13号＝1：2：3.5：3.5

平成29年産米より水稻晩生新品種「新之助」の一般作付が開始されます。そのため、JA魚沼みなみでも「魚沼みなみ新之助研究会」を発足させました。新之助を栽培するには、研究会会員になることが第一条件となります。

興味がある方は、JA米穀課 (TEL777-3180) までご連絡ください。

無人航空機による農業等の空中散布には国土交通大臣の許可・承認が必要です

平成27年12月10日に改正航空法が施行され、無人航空機による農業等の空中散布には国土交通大臣の許可・承認が必要になりました。

※国土交通省の許可・承認申請については、「機体の機能及び性能」、「操縦者の飛行経験、技能等」、「安全確保のための対策」の審査が必要です。

許可・承認については、国土交通省のサイトをご覧ください。  
[http://www.mlit.go.jp/koku/koku\\_tk10\\_000003.html](http://www.mlit.go.jp/koku/koku_tk10_000003.html)

詳細は  を検索！

詳細は下記までお問い合わせください。  
 新潟県農林水産部農産園芸課 電話 025-280-5296  
 新潟県農業用無人ヘリコプター推進協議会 電話 025-233-2839

ご不明な点等がございましたら JA 魚沼みなみ米穀課 (TEL777-3180) までお問い合わせください。

裏面もご覧ください。

## 携帯メール会員募集!!

無料 (通信料は除く) でタイムリーな生育状況や緊急情報をメールで配信しています。

登録の仕方がわからない方は、携帯を持って米穀課にお越しください。こちらで登録いたします！

登録は下記メールアドレスへ空メールを送信

[beikoku@haisin.jp](mailto:beikoku@haisin.jp)

または、右記 QR コードをご利用ください。➔



## 種もみの準備

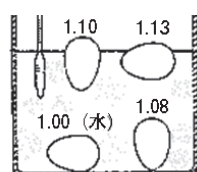
- 10a 当り種もみ 3kgが目安です。
- 余った種もみは適正に処分し、県外への流出は絶対に行わないでください。

今年の種子の休眠は、コシヒカリBLは「平年並み」、五百万石は「やや深い」と推察されています。

### ☆塩水選

| 区分     | 比重   | 食塩の量 (水 10ℓ) |
|--------|------|--------------|
| うるち・さけ | 1.13 | 1.9kg        |
| もち     | 1.08 | 1.1kg        |

生卵で比重を量る



## 浸種のポイント

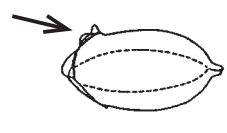
- 種もみ 1kgに対して水は約 3.5ℓ 使用。
- 水温 10～15℃、積算水温 100℃ (7～10日間程) を目安に！
- 種子消毒の効果を高めるため、前半の4日間は水を取り替えずに浸種を行い、その後は、必ず2～3回の水の更新・上下の反転を行い、もみの酸欠を防ぎましょう。

◎浸種は開始から24時間の水温が発芽率に大きく影響します。特に**開始時の低水温(10℃未満)は発芽率低下の大きな要因**となります。開始する前に必ず水温を確認し、**10～15℃になってから行う**ことで発芽率の低下を軽減できます。

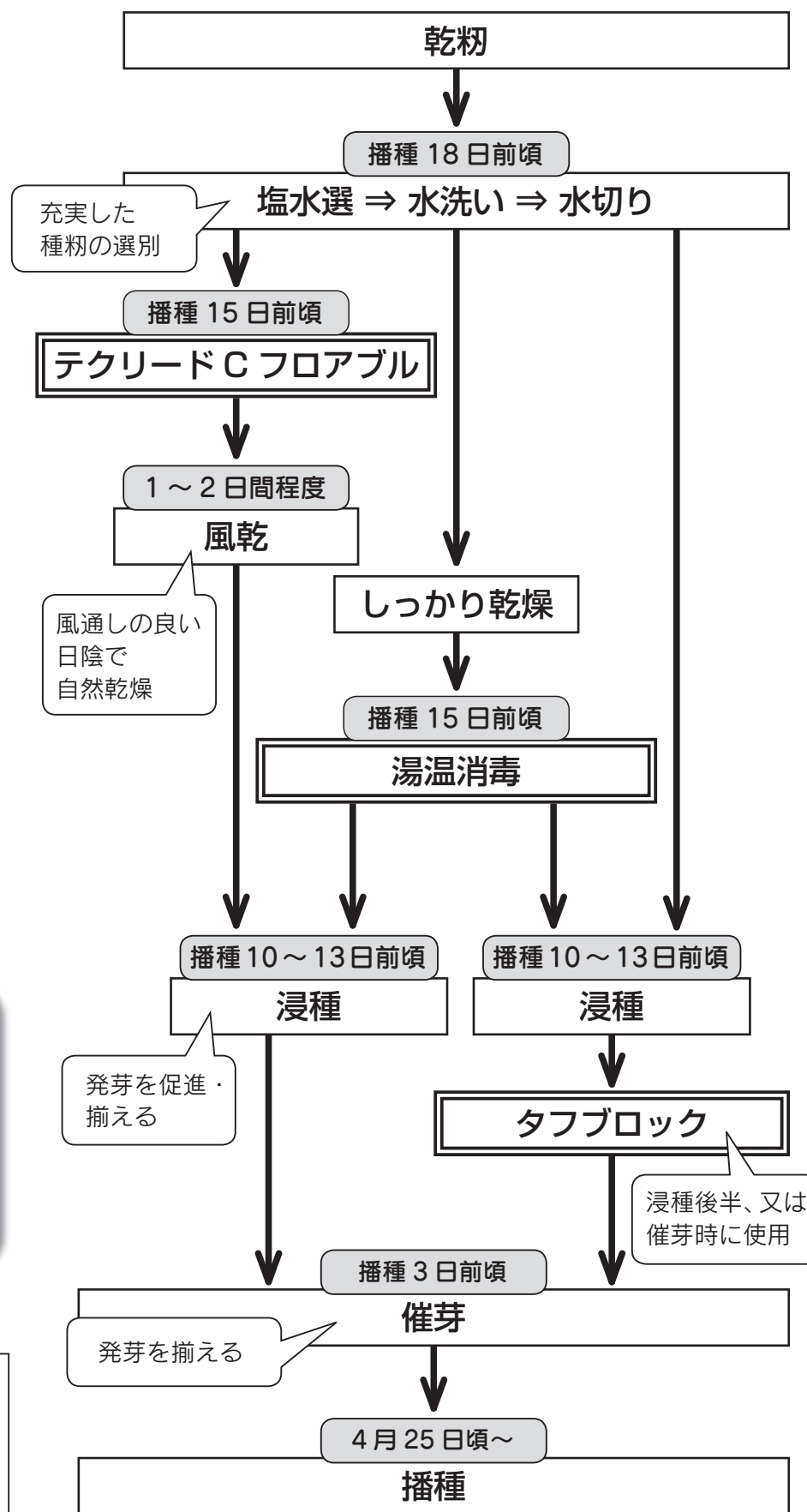
## 催芽のポイント

- 水温 30℃で 1～2 日間が目安！
- 均一にハトムネ状態に仕上げましょう！
- ※水温等により期間は前後するため、確認しながら行いましょう。

【ハトムネ状態】



# 種子消毒の流れとポイント



### ☆テクリードCフロアブル

| 使用時期 | 消毒方法  | 処理の方法            | 同一薬剤の使用回数 |
|------|-------|------------------|-----------|
| 浸種前  | 低濃度浸漬 | 200倍液・24時間浸漬     | 1回のみ      |
|      | 高濃度浸漬 | 20倍液・10分間浸漬      | 反復使用可     |
|      | 種子塗沫  | 原液を籾1kg当り5ml相当塗沫 |           |

- ※浸漬時は薬液が種子全体にいきわたるように、種子袋を薬液内でよく揺する。
- ※種子塗沫を行う場合は、塩水選等で濡れた籾を十分に乾かしてから行う。

#### 【使用量の目安】

| 種もみの量     | 5kg   | 10kg    | 25kg    | 50kg    |
|-----------|-------|---------|---------|---------|
| 水の量       | 10ℓ   | 20ℓ     | 50ℓ     | 100ℓ    |
| 低濃度浸漬 薬剤量 | 50ml  | 100ml   | 250ml   | 500ml   |
| 高濃度浸漬 薬剤量 | 500ml | 1,000ml | 2,500ml | 5,000ml |

### ☆温湯消毒

| 処理方法       | 注意点   |
|------------|---|
| 60℃で10分を厳守 | <ul style="list-style-type: none"> <li>○種子を 60℃の温湯に 10 分間浸漬し、処理後は直ちに冷水で冷やす。</li> <li>○水量と乾籾重の比率は温湯処理機説明書の指定どおりとする。</li> <li>○処理時間が長くなる(15分以上)と発芽率低下の恐れがあるため注意する。</li> </ul> |

### ☆タフブロック

| 処理方法 |                                   |
|------|-----------------------------------|
| 使用時期 | 催芽時か催芽前 (催芽前の場合、浸種の最後の1～2日間に使用する) |
| 使用量  | 200倍 24～48時間 (上記表の低濃度浸漬薬剤量を参照)    |
| 使用回数 | 1回のみ                              |

- ※微生物農薬。籾表面に付着・増殖することで病原菌の侵入を防ぐ。よって、水の更新をする際は、ゆっくり静かに行う。
- ※乾燥させる場合は、風通しの良い日陰で行う。

◎近年、ばか苗病の発生が多くなっています。発病後は防除方法がないため、種子消毒により「発病させない」ことが重要です。温湯消毒のみの場合、ばか苗病の防除効果が劣るため、タフブロックとの体系処理を行いましょう。

種子消毒液の残液・廃液は、排水路や河川等に絶対に流さないでください。